

## 第 95 回 ごみ収集パイプライン利用者の会 議事録

日時	2025年5月29日 19:30~20:30
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者	青木(アステム D 棟)、友田・勝山(アステム C 棟)、伊藤(浜風町3住宅)、時枝(浜風町第 4 住宅)、真宮(浜風第 5 住宅)、末友(新浜町住宅)、三浦・池西(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、松木(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、三宅・山口(アステム A・B 棟)、辛川(芦屋浜第2住宅)、河本・高木(緑第二住宅)、天羽(緑第四住宅三住宅)、大田・野村(潮見南)、春木(南浜 1 街区)、寺前(市議)、内藤(個人) 合計23名
議題	1. マナー違反のごみ投棄 2. 2024 年度パイプライン運転報告(障害レポート) 3. 2025 年度 活動目標 4. 5 月のワーキング・グループの報告 5. 2025 年度ごみパイプライン協議会の報告 6. その他

### 1. マナー違反のごみ投棄について

会議では、近年のごみ投棄マナーの悪化が地域インフラに深刻な影響を及ぼしているとの報告を行いました。特に、若葉 6・7、高浜 2 など特定地域で布団、教科書、衣類、瓶、段ボールなど本来パイプラインに投入すべきでない大型・異物系のごみが継続的に投棄されており、詰まりが常態化しています。これにより、高圧洗浄・乾燥・復旧作業を要するケースが急増し、1 回あたり数十万円、年間で数百万円規模の費用がかかっています。

これらは住民の税金によって処理されていることから、非常に深刻な課題として共有されました。特に外国人住民や短期居住者に対して、ごみ分別文化が十分に伝わっていないという点が強調され、対策の一環として「ひらがな表記のみ」のやさしい日本語による啓発チラシを 1,000 部印刷し、6 月より高浜 2・若葉 6・若葉 7 の重点エリアに配布することが決定されました。

また、以前の芦屋警察署との相談を経て、警察署名入りの注意ポスターの作成や監視カメラ(ダミー含む)の設置の可能性も検討されました。実効性や管理責任の所在の観点から課題もあるものの、継続的な議論と連携が必要との認識が共有されました。

### 2. 2024 年度パイプライン運転報告

2024年度のパイプライン運転実績に関する報告があり、1年間で確認された障害件数は214件と、2023年度(171件)に比べて大幅に増加していることが判明しました。障害の内訳は、コンピュータ制御の異常による信号発信132件、住民の利用ミス・機器不具合など26件、現地点検中の軽微なトラブル56件に分類されます。

具体的には、鍵の途中抜き取りによる「鍵が回らない」問題(13件)や、バケットが開かない・閉まらない問題(10件)、排出スクリュウの詰まり(3件)など、住民による操作ミス・不注意が原因のトラブルも少なくありませんでした。

また、パイプライン自体が45年以上使用されており、老朽化による機器部品の細かな故障や制御装置のトラブルが今後さらに増える可能性も指摘されました。これに伴い、市と利用者会で障害記録を共有し、事後対応から予防対応への転換を図る方針も確認されました。

### 3. 2025年度 活動目標

本年度の活動方針として、以下の4項目を中核目標として掲げ、住民参加による持続可能なパイプライン運用をめざすことが合意されました。

1. **情報の共有化強化**: トラブルの発生傾向、修理費用、予防策等を定期的に文書化し、利用者の会で共有。
2. **代替案の深掘りと整理**: 住宅形態(戸建・中層・高層・タウンハウス)別に導入可能な代替案を3案ずつ整理し、年内に一定の方向性を提示。
3. **注意喚起の充実**: 年次報告書・ポスター・ひらがなチラシ・SNS等多様な媒体を活用して啓発を強化。
4. **市への政策提案**: 制度改正や設置ルールの見直しに向けて、住民からの具体的提案を集約・整理し、芦屋市へ提案していく体制を構築。

さらに、パイプライン廃止後の新システム設計に向け、専門家(ファシリテーター)導入による検討の本格化(8月開始)や、2030年のCO<sub>2</sub>排出半減目標への対応も強調されました。

---

### 4. 5月のワーキング・グループの報告

5月に実施されたワーキング・グループ活動の報告として、特に高層住宅における代替収集方法の検討状況が詳しく紹介されました。高層住宅では、1投入口あたり100世帯を超えるなど、既存設備の過密状態が顕著であり、代替案の導入には多くの課題があることが確認されました。

事例として提案された案は以下のとおりです:

- **A案**: 大型ゴミステーション設置(コスト小、運用シンプルだが景観・スペース問題)
- **B案**: 機械式圧縮投入口(高コスト・安全性確保必要)
- **C案**: カート収集方式(火災リスク・エレベーター移動問題)

- ・ **D案**:簡易囲いステーション(市営住宅での既実績あり)

各案についてはメリット・デメリットを洗い出し、評価基準に基づく比較・検証を行った上で、今後の実証実験候補として3案に絞り込む作業を進めることが確認されました。また、リチウムイオン電池による収集車火災のリスクが浮上しており、安全性への配慮が代替案選定において重要な要素となっています。

## 5. 2025年度 ごみパイプライン協議会の報告

市環境整備課・収集課・施設課との協議会においては、維持・運用に関する長期計画と2024年度の実績報告が行われました。新たに着任した泉部長の方針のもと、以下の点が報告・確認されました:

- ・ 障害件数の増加(214件)に対する対応策強化
- ・ 設備の老朽化に伴う補修・改修計画(年間最大2.6億円)
- ・ 新方式への移行支援体制の構築
- ・ CO<sub>2</sub>削減目標との整合性確保(現時点で約20%削減達成)

ファシリテーターの採用を通じて、民間知見の導入と行政内調整の加速を図る体制整備も進められており、8月以降の実務的検討が本格化する見通しです。

## 6. その他

- ・ **黙祷の実施**:長年、利用者会を支援されてきた長谷議員のご逝去に伴い、冒頭で黙祷が行われました。
- ・ **補修方法の多様化**:水中ボンド、内張り鋼板、輸送管交換に加え、新たに外張り方式の検討も進行中。内側からの補修が難しい箇所への対応策として注目。
- ・ **梅雨・台風シーズンの対策**:降雨による地中浸水→管内漏水→詰まり発生の懸念が高まっており、早期の現地確認と補修対応の必要性が強調された。
- ・ **代替案評価の今後**:投入口ごとの投入量・配置・アクセス動線等の詳細データ分析に基づき、地域ごとに3案程度の実証実験を来年度中に実施予定。
- ・ **カート導入の議論**:西宮市の先行事例を参考にしつつ、搬送距離、設置スペース、安全性、維持コスト等多角的な観点から検討が求められている。

---

次回開催予定:2025年6月26日(木)

備考:次回は参加者の自己紹介を実施予定